

防災の備えについて日頃から思うこと

香川県危機管理総局危機管理課 防災指導監 松村朝生

1 はじめに

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様、如何お過ごしでしょうか。コロナ禍の影響で行きたい所にも行けず、親しい方とのお付き合いの機会も控え、何かと不自由な生活を強いられておられるのではないのでしょうか。コロナ禍により今までの生活様式が一変し早1年が過ぎましたが、未だ終息するような見通しが立たないばかりか、都市部を中心にイギリス型変異株の急激な感染拡大による「第4波」到来が鮮明になりました。そのような中、香川県内でも待ちに待った65歳以上の高齢者のワクチン接種が4月15日から丸亀市、坂出市で開始され、5月の連休明けから本格的に接種される予定ですが、何とかして感染拡大期が訪れる前にスムーズなワクチン接種が行われ、「人」と「人」が強い絆で結ばれた、以前のような日常生活に一日も早く戻れることを願ってやみません。あともう少しの間、窮屈な日常生活に我慢していただき、「明けない夜はない」と心に希望を持って、ご健康に引き続き留意されますよう心からお願い申し上げます。

さて、私事ですが、自衛隊を退職して郷里の香川県に防災指導監としてお世話になり早3年が経ち、県庁の雰囲気にも大分慣れ、県の防災に微力ながら携わることができ、充実した勤務をさせていただいています。本誌にて紹介いただくのは県庁に着任したH30年度に続き2回目になりますが、会長から防災への備えについては勿論の事、自衛官当時の勤務についても詳細に書いて欲しいとのご要望を頂きましたので、今回は自衛隊での私の主要な勤務、そして災害派遣の経験についても皆さまにご紹介させていただきます。

2 自衛官として主要な勤務歴

- (1) 自衛官として初めての赴任部隊が福島県福島市にある第44普通科連隊でした。小銃小隊長、レンジャー教官、情報小隊長等として7年間勤務しました。44連隊はいわゆる旧軍でいう「歩兵部隊」であり、中でもレンジャーは最小限の食料・水を携行し敵陣地の後方地域に深く潜入して



約50kの装具を携行して山間踏破するレンジャー行動

敵戦力発揮の妨害行動を行う特殊部隊で、その訓練は陸上自衛隊の中で最も過酷な訓練とされています。そのレンジャー課程（約3ヶ月間）を富士で経験し、卒業後部隊でもレンジャー教官として数回訓練を担当しました。

(2) その後、母校防衛大学校の指導教官として1年間、2年生と4年生に対して陸上自衛官としての基礎的訓練の指導、及び将来の幹部自衛官としての必要な資質（率先垂範・活模範等の統率・リーダーシップ、自主自律の精神等）について教育する機会を頂きました。その後防大秘書室にて副校長秘書として1年間勤務しました。

(3) 平成9年から11年の2年間、宮崎県えびの市で第24普通科連隊1中隊長（隊員数150名）として勤務しました。初めての部隊指揮官

(Commander)として教育訓練、サービス指導を行いました。この時、鹿児島県霧島演習場にて約10日間、沖縄に駐屯する米海兵隊約100名との日米共同訓練を通じて共に汗を流し、日米の戦術・戦法、戦闘行動



について相互に学び合い、日々の訓練が終われば親しく盃を交わして親睦を深め、微力ながら現場レベルでの日米相互の信頼関係の構築に寄与できたと自負しています。

テント前にて米海兵隊中隊長と訓練要領について調整中

(4) 平成11年から3年半、東京都港区六本木、その後移駐した新宿区市ヶ谷駐屯地の防衛省陸上幕僚監部教育訓練部訓練課にて「富士訓練センター」の立上げを担当しました。

この「富士訓練センター」は初めて耳にした方もいると思いますが、静岡県と山梨県境に所在する富士演習場に我が国で初めて作った約6km四方の訓練センターで、敵と味方に分かれ小銃・砲弾の実弾を使わずレーザー光線などを使って実戦に近似した訓練環境で訓練することにより、全国の普通科中隊等（戦闘の基幹部隊）を富士に集め、弾薬消費に係る防衛予算を抑制しつつ、効果的・効率的な訓練を実施する訓練場です。

本格運用するにあたり、その訓練場の必要性・企画設計、GPS等の訓練器材の要求性能、財務への予算要求等の業務を実施し、また初めて訓練場を作るということで、ドイツにある米陸軍最大規模の訓練場（機動訓練センター「CMT C」）を直接研修して、そのノウハウを学んで業務に反映しました。

(5) その後、念願であった地元香川県善通寺市の第15普通科連隊で第3科長として2年間勤務しました。

第3科長の業務は、連隊に所在する隊員の教育訓練、防衛・警備、災害派遣を所掌して連隊長を補佐する作戦幕僚であり、平素の教育訓練で如何に連隊、隊員を練成するか、について熱心に取り組みました。言うまでもなく自衛隊の使命は「国民の生命と財産を守る」最後の砦であり、いざという時、国民の期待に応えるためには日頃の厳しい訓練による精強な部隊の育成が極めて重要です。普段から厳しい訓練を実施して、隊員の体力・気力の充実、戦闘戦技の向上を図る教育訓練こそが陸上自衛隊の隊務運営の主軸であり、そういう意味でも、教育訓練に直接携わる立場を得て、やりがいを持って勤務しました。

(6) 2年間の香川県善通寺での地元勤務を終え、次は兵庫県伊丹市にある中部方面総監部で、YS準備班長（日米共同訓練（YS「やまさくら」の企画・実施担当））として2年間勤務しました。

YSとは米陸軍（約1500名）と陸上自衛隊（約5000名）が参加する約1週間連続状況下で行う、陸上自衛隊として最大規模の日米共同方面隊指揮所演習（図上演習）です。日米共通の訓練項目を何に設定するか、そのためにはどのような状況を作として訓練させるべきか、演習の中で日米の調整機会をどのように設定するか、等について毎日夜遅くまで関係者と協議し、どうにか演習目的を達成できました。

(7) その後、高知県高知市にある自衛隊高知地方協力本部で陸・海・空自衛官の募集を担当する募集課長を2年間した後、2回目の伊丹駐屯地勤務（秘書室長）を経て、山形県東根市の第6師団司令部（宮城・山形・福島3県を担当）で監察官をしました。

自衛隊の組織は指揮官をトップとして一隊員に至るまでピラミッドのような構成になっており、トップの命令・指示による上意下達により組織力を発揮するわけですが、より指揮官の意向を全隊員に理解・納得させるとともに、末端の隊員個々の心情・真意をトップ（指揮官）に確実に伝えること（下意上達）により、非常に過酷な状況下でも危険を顧みず、指揮官と隊員が一丸となってはじめて任務達成が可能となります。監察官は下意上達の重要な職務であり、指揮官と隊員間のより良い信頼関係を構築するための指揮官の統率を補佐するものです。

丁度監察官をしている時に、あの東北大震災に遭い、宮城県、福島県庁での災害派遣業務を行うとともに、監察官として被災現場で行方不明者の捜索等を行う隊員と懇談し、各隊員の体調、悩み、要望等現場の実情を把握して師団長等に報告しました。

(8) 平成24年から2年間、広島県海田市にある第46普通科連隊長をしました。第46連隊は隊員約700名が所属し広島県の防衛警備、防災を担当する部隊です。2年間の連隊長上番間は大きな災害もなく、教育訓練に専念することが出来ました。この間、今までの自衛官生活の集大成として、指揮官としてのあるべき姿、職務の重要性等について、改めて勉強させていただきました。



駐屯地記念日で車両行進する第46普通科連隊

その後、兵庫県伊丹市の第3師団司令部、中部方面總監部で勤務し33年の自衛官生活を終え退職し、香川県庁に再就職して現在に至ります。だらだらと長く自己紹介を書いてしまいましたが、自衛官生活の一端を少しでもお分かりいただければ幸いです。

3 自衛隊勤務時の災害派遣経験

(1) 本島山林火災（善通寺駐屯地勤務時：H14年8月）

現地指揮所に勤務し、自衛隊、警察、消防の各防災機関の役割分担、地上消化と空中消火の地域割、地上消化部隊の消火要領について、常に関係者と顔を突き合わせて調整しました。

当初、他県を含む防災ヘリ、大型・小型自衛隊ヘリにて周辺貯水池からのくみ上げ水等を投下して消火しましたが、投下頻度と水量を更に上げるため、瀬戸内海の海水を投下することを決心し、約1週間で消火活動が終了しました。山林火災は火種が小さい段階で消火する初期消火が鉄則であり、一旦火が拡大してしまうとなかなか消火することが困難になり、焼失面積も大きくなります。その意味では、海水を投下すれば樹木の成長に著しく支障をきたしますが、当時の判断については苦渋の決断だったように思います。

(2) 直島町風戸山山林火災（同上：H16年1月）

善通寺駐屯地に開設した災害派遣の連隊指揮所に勤務し、主としてヘリ消火のための関係部隊との細部調整を実施しました。

(3) 旧大野原町土砂災害、高松市高潮災害、さぬき市・国分寺町・善通寺市の台風災害派遣（同上：H16年10月）

善通寺駐屯地に開設した災害派遣の連隊指揮所に勤務し、関係部隊との細部調整を実施しましたが、H16年は災害の当たり年で、次から次へと来襲する台風被害により土砂災害、高潮被害が発生し、休暇も返上して右往左往しながら対応した思い出があります。

(4) 東日本大震災（山形県神町駐屯地勤務時：H23年3月～8月）

震災3日後、宮城県庁、次いで石巻市役所、福島県庁に第6師団前方調整所副所長として約半年に亘り災害派遣に従事しました。自治体側の災害派遣のニーズを把握し、その中で自衛隊側の対応の実効性を検討し具体的な部隊運用について調整しました。

災害初動期は被害情報が全く不明で、自治体職員は勿論、警察、消防、自衛隊相互の情報共有も上手く機能せず大変苦労しましたが、各機関の収集した情報を一元的に集約することが災害対応の肝だと考え、防災関係機関等の職員がそこに足を運べば必要な情報が得られるような、そんな「調整所の魅力化」を目指し、自衛隊の調整所を構成しました。徐々に情報の共有化が図られ、災害対応についても効果的・効率的且つ組織的に実施されるようになったと思います。

4 県民への防災の備え

(1) 台風と集中豪雨

ここ最近、毎年日本全国のどこかで台風若しくは集中豪雨で想定をはるかに上回る暴風雨により甚大な被害を受けており、常態化していると言っても過言ではありません。

今年も4月としては異例の猛烈な勢力(895hPa)の台風2号がフィリピンの東を進んでいる、とのニュースがありました。幸いにして日本上陸は免れましたが、これからは想定外の風水害が何処かで起きると考えた方が自然ですし、考えなければいけないと思います。

では、災害の比較的少ない温暖なこの香川県についてもどうすべきか？まずは自宅等のハザードマップをよく見て、自宅周辺の被害状況を知ることが重要です。被害状況を知らなければ、何をすべきか明らかになりません。自宅裏でがけ崩れが起きるのか、浸水するのか、その際の避難所はどこか、などを日頃からそれぞれが把握することが重要です。

そして実際に災害が発生する前に、早めに避難行動に移すことです。政府は従来の「避難勧告」と「避難指示」の違いがわかりづらい等との世論を踏まえ、梅雨入り前に「避難勧告」と「避難指示」を一本化し「避難指示」に統一する改正法の施行を目指す予定ですが、いずれにせよ「正常性バイアス」を断ち切り、「我が事」して捉え、努めて早くアクションに移す行動が求められると思います。

「避難」とは「難を避ける」ことであり、例えばハザードマップを見ても自宅が最も安全であるのに、必ずしも危険な夜道を通して避難所に避難する必要はありません。しかし避難所しか安全を確保出来ない、となったならば「他人事」とは思わず「我が事」として自分の命を救うため、直ちに行動していただきたいと思います。

(2) 地震への備え

南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は70～80%と言われていますが、将来的には100%発生すると確信しています。今後30年以内に交通事故で不幸にも死亡する確率は統計上0.2%であり、500人のうち1人は亡くなるとデータで公表されています。この数字からも南海トラフ地震の発生確率が如何に高いかご理解いただけたらと思いますが、いうならば今は「南海トラフ地震の発災前」とも言えます。

では日頃からどう備えるべきか？食料・飲料水の備蓄、携帯トイレの準備、非常持ち出し袋の準備、懐中電灯、予備電池等、全て必要なことは間違いありません。ただしこれらは「命」が助かった後に必要になる物です。地震直後の家屋等の倒壊（家具の転倒）、津波、大規模火災から幸運にも逃れることが出来た後の避難生活等で必要な食料・水・日用品等及び安全を確保する行動であり、こうした行動以上に、最も重要な事は「命」を守る行動ではないかと思えます。

すなわち、「家屋の耐震化」、「家具の転倒防止」により、地震発生時の強い揺れから「我が身の安全を守ること」を第一に考えることの重要性を再認識することが必要ではないかと思えます。そして、その後の避難生活をより快適に過ごすために、前述の準備が必要ではないかと思えます。「南海トラフ地震」はいつ起きても不思議ではありません。今日起きるかもわからないし、明日かもしれない。いつ起きてもかけがえのない「命」が守れるよう、まずは日頃から「家具の転倒防止」「家屋の耐震化」について今一度考えて頂きたいと思えます。

4 終わりに

今後とも防災指導監として微力ながら職務に専念努力したいと思えますので、引き続きかがわ自主ぼう連絡協議会の皆様からの温かい御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

事務局だより

令和3年 4月、5月

今月の事務局だよりは、川西コミュニティの最近の取組みについて紹介いたします。

1. 森の再生事業

農水路の開発事業によって、倒木、伐採された跡地に約2年ぶりに若木30本を植樹することができました。

＜若木の内訳＞

クスノキ 8本 クロガネモチ 8本
ケヤキ 7本 エノキ 7本

すべて成長すると20～25メートルの高木となります。

植樹時期は3月12～14日の3日間で実施し、現在はこの若木に4日おきに水やり作業（1回2トンの水を使用）を行なっておりますが真夏がくるともっと短い周期で実施することになります。

＝植樹作業中の写真を紹介します＝



植樹地点へ苗木を落ち着かせています



キャリアダンプで土砂の運搬
操作は元大型バスの運転手さん



支柱のくい打ち



苗木周囲へ肥料を運びます



コミセン前所長の操作で土砂を積み込み



植樹した苗木を固定します



竹林撤去地へ平戸つつじを植え付け



平戸つつじの植え付け

2. その他

- (1) この時期人事異動と総会資料作りに追われることとなりますが、かがわ自主ぼうの活動報告のとりまとめに奔走しています。
- (2) かがわ自主ぼうの役員によって頑張ってきました“ざぶん賞”本部が運営支障となって本年度活動休止となりました。
純粹に応募していただいた小中学生の児童皆さんに申し訳ない気持です。
※ざぶん賞とは、青少年の健全なる成長を願う、“水”に関する作文の募集です。

以上

編集後記

4月5月の防災減災の輪は、国分寺北部校区自主防災組織連絡協議会 岡様、香川県危機管理総局危機管理課防災指導監 松村様の原稿と香川県危機管理総局の皆様の異動のご挨拶を掲載させていただきました。ありがとうございました。